

ボーイング737-8型機、737-10型機の機体デザインを決定



導入予定の新機材ボーイング737-8型機と737-10型機(イメージ)

スカイマーク株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役社長執行役員:本橋 もとはし 学 まなぶ)は、導入予定の新機材ボーイング737-8型機と737-10型機の機体デザインを決定しました。

従来機(ボーイング737-800型機)のデザインを踏襲しつつ、ブランドカラーである「SKY BLUE」を垂直尾翼から機体下部へと流れるように拡張し、最新機種の躍動感とともに、新たなフェーズへ前進を続ける意思を表現しました。また、ウイングレットは、たくさんの温かさ(ハート)をさらに多くの人々に届けたいという若手社員の着想から、赤いハートを2つあしらった「ダブルハート」を採用しています。空の旅がより一層ハートフルな時間になるよう願いを込めたデザインにしました。



現在使用しているボーイング737-800型機

スカイマークは「安全をすべての基盤とし、安心かつ高品質で、シンプルでありながら心のこもった快適な航空サービスを、身近な価格で提供する」というミッションのもと、今後もお客様の利便性向上に向け、より快適で魅力的な空の旅を提供してまいります。

以上

<ご参考>

ボーイング737-8型機、737-10型機について

スカイマークが発注している737-8型機は、現行機の737-800型機と比較して、座席あたりの燃料消費量および二酸化炭素排出量を約15%軽減できることが見込まれます。また、737-10型機は、737-8型機と比べ胴体が長く、座席数が増加することから、737-800型機との比較で座席あたりの燃料消費量および二酸化炭素排出量が約19%軽減できることが見込まれます。

<ボーイング737-800型機(現行機)と新型機ボーイング737-8型機、ボーイング737-10型機について>

	ボーイング737-800型機	ボーイング737-8型機	ボーイング737-10型機
全長	39.5m	39.5m	43.8m
全高	12.5m		12.3m
全幅	34.3m		35.9m
航続距離	5,440km	6,480km	5,740km
搭載エンジン	CFM-56	CFM LEAP-1B Engines	
座席数	177席	177席	最大210席
燃料消費量 (現行機と比較)	—	約15%削減 ^{※1}	約19%削減 ^{※1}
受領時期	—	2026年3月～	2027年度

※1: 1座席当たり燃料消費量。消費量は固定とし、座席増加による1席あたりの燃料消費量削減度を算出